

## 平成20年度「福井新元氣宣言」推進に係る政策合意の実施結果 (平成21年3月末現在)

「福井新元氣宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成20年4月に知事と合意をした「政策合意」の実施結果について、次のとおり報告します。

平成21年3月

土 木 部 長 中 安 正 晃

### I 総括コメント

#### 1 高速交通ネットワークの整備

- ・ 舞鶴若狭自動車道について、平成23年度完成を目指す小浜西・小浜間は、用地買収が全て完了し、工事が全線にわたって着実に実施され、小浜・敦賀間は、平成26年度完成を目指し、用地買収および工事が着実に進捗しています。  
完成予定時期より一日でも早く開通できるよう、今後とも西日本および中日本高速道路株式会社に対し強く要請していきます。
- ・ 中部縦貫自動車道の整備は、永平寺大野道路の上志比・勝山間が3月28日に開通するとともに、新たに勝山・大野間の工事が着手されました。  
また、中部縦貫自動車道全線の早期開通に向け、県民の気運の盛り上げに努めた結果、大野油坂道路の大野東・和泉間が、平成20年度の新規事業として採択され、全線整備に向けて大きく前進しました。  
今後とも、福井・大野間の一層の事業推進、大野東・和泉間の速やかな事業の実施および残る大野・大野東間、和泉・油坂峠間の早期事業採択に向け全力を尽くします。

#### 2 社会資本の整備と適切な維持管理

- ・ 県内の主要道路の整備を促進するとともに、既存ストックを有効に活用するため、歩行者や自転車に配慮した歩道の改修、橋梁の長寿命化対策等を進めました。  
また、公共事業と環境は密接な関連を有することから、創意工夫や新しい技術を取り入れながら、環境に配慮した公共事業を推進しました。  
真に必要な社会資本の整備を進めるとともに、次の世代に引き継ぐ社会基盤の安全・安心の確保などを適切に行い、入札制度の改正と併せて、県内経済の活性化につなげていきます。

#### 3 自然災害に対する安全・安心の確保

- ・ 足羽川の激特事業は、河床掘削や護岸工事がほぼ完成し、治水安全度が向上するとともに、木田橋、泉橋が供用され被災前の交通機能を取り戻しました。  
今後は、植栽が完了した桜つつみや河川敷での散策、水辺での生き物や水とのふれあいなど、多くの方々に親しまれる足羽川にしていきます。
- ・ 自然災害の事前対応として、主要河川や過去に被害が溪流などについて優先的に改修等を実施し、また、雨量、水位情報の充実やハザードマップを使った避難訓練等を行いました。  
今後は、主要河川の治水安全性のレベルをさらに向上するとともに、流域全体での防災力の強化を図っていきます。

### II 「政策合意」項目に係る結果について

- ・別紙「平成20年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)」のとおり

## 平成20年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)

(平成21年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	土木部長	氏名	中安 正晃
項目		実施結果	
1 高速交通時代のにぎわい交流まちづくり ◇ 県内の道路交通ネットワークの整備・保全 舞鶴若狭自動車道については、平成26年度の全線開通予定を一日でも早めるため、未買収の用地の取得を促進します。また、当面の部分開通目標である小浜西・小浜間についても、平成23年度の開通予定を一日でも早めるため、用地買収を促進します。		[成果等] 目標を達成しました。 全区間(小浜西・敦賀間)において、99パーセントの用地買収が完了し、現在、国富トンネル工事や気山高架橋工事などが実施されています。 平成26年度の全線開通に向け、小浜・敦賀間においては、99.5%の用地買収が完了し、現在10か所でトンネル工事等が実施されています。 平成23年度の開通を予定している小浜西・小浜間は、全ての用地買収が完了し、工事が全線にわたって順調に進んでいます。	
		舞鶴若狭自動車道 小浜・敦賀間 用地買収99.5%完了 区間内の55%(21km)で工事中  小浜西・小浜間 用地買収100%完了 全区間(11.4km)で工事中	
中部縦貫自動車道については、大野油坂道路の今後10年から15年での全線整備と既に事業に着手している永平寺大野道路の上志比・勝山間の平成20年度内供用等を引き続き目指し、福井・大野間の着実な事業推進と大野油坂道路の事業着手の早期決定を国に強く働きかけます。		[成果等] 引き続き実施します。 福井・大野間において、90パーセントの用地買収が完了し、3月28日には、上志比・勝山間が開通しました。 勝山・大野間では、新たに大袋(おおぶくろ)、小矢戸(こやと)、杉俣(すぎまた)の3か所のトンネル工事が行われています。 大野油坂道路も含めた中部縦貫自動車道全線の早期開通に向け、促進大会、中央要請、総決起大会など、広く政府、与党等関係者に対し沿線住民の熱意を強く訴えました。 その結果、大野油坂道路の大野東・和泉間(14km)が、3月13日に新規事業として採択されました。	
		中部縦貫自動車道 福井・大野間(26.4km) 用地買収90%完了 うち上志比・勝山間(7.9km)3月28日開通  大野油坂道路を含む全線早期開通に向けた活動 整備促進提言 11月21日 総決起大会 2月10日  大野油坂道路のうち、大野東・和泉間の新規事業採択 21年3月13日	

## 平成20年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)

(平成21年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	土木部長	氏名	中安 正晃
項目		実施結果	
<p>県内の主要道路については、植樹祭に使われる道路や高規格幹線道路と連結する道路などを最優先に、整備に努めます。事業の執行に当たっては、県民の利便性、効果、効率性、優先度を見極め、県民とのコミュニケーションを十分とりながら進めます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>「道づくり協議会」を通じ、整備路線において住民との意見交換を行い、いただいた意見を事業に反映するよう努めました。</p> <p>また、中部縦貫自動車道の整備促進において、小・中学生を対象とした「出前講座」を開催するなど県民へのPR活動を行いました。</p>	
<p>主要道路の供用路線数 (平成19年度末 3路線) 10路線</p> <p>(7路線の増: 植樹祭関連道路の国道158号、県道篠尾勝山線など)</p>		<p>主要道路の供用路線数 11路線(8路線の増)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国道8号敦賀バイパス(敦賀市坂下～小河口) 11月15日</li> <li>・中部縦貫自動車道(上志比・勝山間) 3月28日</li> <li>・県道篠尾勝山線(福井市脇三ヶ) 11月14日</li> <li>・国道158号 奈良瀬～境寺バイパスのうち上新橋～美山橋間が部分供用 3月30日</li> <li>・国道27号美浜東バイパス(美浜町山上～佐柿) 3月29日</li> <li>・県道鯖江美山線(福井市安波賀町) 3月19日</li> <li>・常神三方線(遊子トンネル)(若狭町遊子～塩坂越) 3月24日</li> <li>・上志比インター線(永平寺町牧福島～大月) 3月28日</li> </ul>	
<p>本年度から新たに橋梁の長寿命化修繕計画の策定を行うなど、道路の維持管理を計画的かつ重点的に推進します。</p> <p>また、既存の道路敷地を有効利用して交差点に右折レーンを設置するなど、効率的な道路の渋滞緩和に努めます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>県が管理する2,346橋(2m以上)のうち、今年度は緊急輸送道路や跨線橋など568橋について長寿命化修繕計画を策定しました。今後、経済対策として、全橋梁の計画策定完了(22年度)に先立ち耐震、塗装等の一体的な予防保全を前倒しで実施します。</p> <p>また、福井市松本交差点で区画線を見直して右折レーンを確保するなど、新たに13か所で交差点の円滑な通行が可能となりました。</p>	
<p>渋滞を緩和する主要交差点数 (平成19年度末 9か所) 22か所 (13か所の増)</p>		<p>橋梁の長寿命化修繕計画の策定 緊急輸送道路や跨線橋等568橋対象</p> <p>渋滞を緩和する主要交差点数 22か所 (13か所増)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・松本通りの松本交差点</li> <li>・福井南消防署前交差点 など</li> </ul>	

## 平成20年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)

(平成21年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	土木部長	氏名	中安 正晃
項目		実施結果	
◇ 環境に配慮した社会資本の整備 社会資本の整備に当たっては、設計、資材調達および工事の実施などあらゆる面において、環境に配慮した整備の検討、導入を進めます。		<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>環境配慮型公共工事検討委員会で、川にみお筋を形成し植物を再生するなど環境に配慮した工法の検討等を行いました。また、雪対策・建設技術研究所において、環境配慮やコストを縮減する資材等を開発し、実証試験等を行いました。</p> <p>環境に配慮した公共工事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・狐川（福井市湊町）…ウグイやカワニナの生息に配慮し、みお筋（※）を形成</li> <li>・一乗谷川（福井市城戸の内）…ホタルの生息に配慮し、石積護岸を整備</li> <li>・足羽川（福井市勝見）…タコノアシに配慮し、湿地帯を確保 ※みお筋：水深に変化を持たせることで、水量が少ない時でも水の流れが確保される</li> </ul> <p>環境を配慮した新しい資材の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木タールを再利用したCO<sub>2</sub>排出が少ない舗装材（春江丸岡線（坂井市西長田）で試験施工）</li> <li>・耐久性が高い保水性舗装（福井加賀線（福井市文京3丁目）で試験施工）</li> </ul> <p>設計面における環境配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・足羽川における木工沈床（※）の整備 ※木工沈床…間伐材と自然石を使用し、河川護岸の根固めとして施工するもので、生き物にも優しい工法</li> <li>・在来種（ヨモギなど）を利用したのり面緑化工事（国道305号 河内～奥野々道路 南条郡南越前町河内など）</li> </ul>	
公共下水道、農業集落排水施設等や合併処理浄化槽の整備を効率的に行うため、人口動態、土地利用状況などの基礎調査を実施し、その結果に基づいて適切に選定された整備手法を、「福井県污水处理施設整備構想」に反映させていきます。		<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>事業主体である市町と協力して、基礎調査を実施しました。その結果、福井県内では、人口の減少とともに、一人あたりの水使用量は平成8年度の400ℓ/日をピークに減少しており、現在、ピーク時の約9割になっています。この結果をもとに、公共下水道の整備予定地区を合併処理浄化槽へ変更することなど、各市町に最も適した整備手法を検討し、「福井県污水处理施設整備構想」に反映していきます。</p>	

## 平成20年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)

(平成21年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	土木部長	氏名	中安 正晃
項目		実施結果	
<p>ゆとりある敷地で安心して暮らせる木造住宅(県産材使用率40%以上)や、高齢者のためのバリアフリー化された民間賃貸住宅の普及を支援します。</p>		<p>[成果等] 目標達成にはいたりませんでした。</p> <p>優良な木造住宅の普及を図るため、事業の申請書類を簡素化するなど手続きの改善を行いました。目標達成にはいたりませんでした。制度を創設した平成18年度より毎年件数が増加し、今年度は、昨年度比95%増(20戸→39戸)となりました。さらに、新年度においては、適用要件を拡大し、県産材を活用した断熱性の高い環境配慮型の住宅の拡大を図ります。</p>	
<p>ゆとりある敷地を有する木造住宅やバリアフリー化された住宅の普及戸数 50戸</p>		<p>ゆとりある敷地を有する木造住宅やバリアフリー化された住宅の普及戸数 39戸</p>	
<p>地域住民、企業等との共働により、河川での草刈・清掃、歩道内の花の植栽、危険箇所の情報提供を行う「川守」「道守」について、地域ぐるみの継続的な活動が行われるよう促進します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>「川守」「道守」活動への参加促進を図るため、職員が率先して地域の活動に参加するよう努めるとともに、熱心な活動を行っている自治会や企業等の活動をホームページで紹介しました。</p> <p>特に、県内外の多くの人々が行き交うJR福井駅をはじめとする主要な駅、主要道路沿線を重点に花の植栽活動などが広がりました。</p> <p>また、降雪期前の立木伐採への協力や、道路の損傷箇所の情報提供をいただくほか、地域住民が主体となって河川の浚渫を行うモデル事業(坂井市丸岡町長畝地区)を実施するほか、新たな展開を図りました。</p>	
<p>川守参加者数 (平成19年度末 74,170人) 74,500人</p> <p>道守参加者数 (平成19年度末 5,620人) 9,200人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国植樹祭に向け、福井駅など重点的に花の植栽の活動拡大</li> <li>・県内の主要道路での情報提供者の拡大</li> </ul>		<p>川守参加者数 74,580人 道守参加者数 10,290人</p> <p>地域ぐるみで継続的な活動が行われた事例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路植栽帯の除草・花植え活動(福井市大手)</li> <li>・日野川河川敷等の清掃活動(鯖江市)</li> <li>・笙の川の環境美化活動(敦賀市)</li> </ul>	

## 平成20年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)

(平成21年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	土木部長	氏名	中安 正晃
項目		実施結果	
2 日本一の安全・安心 ◇ 自然災害に対する安全・安心の確保 足羽川の激特事業については、河床の掘削および堤防強化等を完了し、所要の治水効果を確保するとともに、木田橋や泉橋の架け替え工事も完了します。		[成果等] 目標達成にはいたりませんでした。 足羽川の木田橋は昨年12月に、泉橋や堤防強化に伴う桜堤整備は3月に完成しました。 河床掘削や護岸工事については、出水期(6月中旬)までに完成します。	
足羽川激特事業の完了 木田橋 平成20年12月供用予定 泉橋 平成21年2月供用予定		足羽川激特事業 河床掘削 99%完成 木田橋 12月14日供用 泉橋 3月1日供用 今後の完成予定 河床掘削 5月 護岸工事 6月	
ハザードマップの作成支援や土砂災害警戒区域等の指定を行い、危険箇所の情報を市町の防災計画に的確に反映させ、消防団や自主防災組織の防災訓練に活用します。 また、避難に必要な情報を迅速に伝達するため、雨量、水位などのリアルタイム情報を、インターネット、携帯メールで配信します。		[成果等] 目標を達成しました。 洪水・土砂災害ハザードマップを市町の防災体制に的確に反映させるため、6月には大野市佐開地区、9月には鯖江市日野川等でマップを用いた避難訓練が実施される等活用を促進しました。 また、5月に、県職員OBの市町への派遣制度を創設し、災害復旧体制の強化を図りました。 土砂災害警戒区域等の指定は、十分な地元説明を行った上で指定しました。	
洪水・土砂災害ハザードマップの作成 (平成19年度末 計11市町) 13市町 (2市町の増) 土砂災害警戒区域等の指定数 (平成19年度末 5,356か所) 7,856か所 (2,500か所の増)		洪水・土砂災害ハザードマップの作成 13市町 (2市町 永平寺町、小浜市の増) 土砂災害警戒区域等の指定数 7,891か所 (2,535か所の増)	

## 平成20年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)

(平成21年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	土木部長	氏名	中安 正晃
項目		実施結果	
<p>県内の各河川について、治水対策の現状の把握・課題の抽出を行い、防災対策をレベルアップします。</p> <p>治水対策が必要な河川については、河床の掘削や護岸の河川改修を実施するとともに、土砂の浚渫を計画的・効率的に行います。</p> <p>なお、浚渫工事に係る補助制度の創設や浚渫土砂の有効利用方策など、既存ストックを最大限活用した治水施策を国に働きかけます。</p> <p>また、土砂災害の危険性が高い箇所において、砂防ダムなどの整備を実施します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>河川改修については、現状分析を行い江端川、荒川について改修工法等を見直しました。また、大蓮寺川については、今後10年で効果が発現できるよう、河川整備計画変更の手續きに着手しています。</p> <p>浚渫については、市街地など災害時に大きな被害が想定される箇所を重点に、4.2万m<sup>3</sup>を実施しました。また、前倒し整備を行うことによって、平成22年度までに20万m<sup>3</sup>を実施します。また、国の補助制度において緊急的な浚渫が対象となったことから、安全・安心な河川の整備を加速していきます。</p> <p>また、福井市宮の谷川や南越前町南瀬地区など、緊急性、必要性の高い砂防堰堤等が22か所完了しました。</p>	
<p>洪水に備えた改修が完成する河川数 (平成19年度末 1河川) 3河川 (2河川:浄土寺川ダム、 狐川のポンプの増)</p> <p>河川における浚渫促進 4万m<sup>3</sup></p> <p>土砂災害対策工事の実施により土砂災害を防止する箇所数 (平成19年度 41か所完成) 98か所</p>		<p>洪水に備えた改修が完成する川数 3河川 (2河川:浄土寺川ダム、狐川のポンプの増)</p> <p>河川における浚渫促進(平成19年度3.4万m<sup>3</sup>) 4.2万m<sup>3</sup></p> <p>土砂災害対策工事の実施により土砂災害を防止する箇所数 98か所(平成20年度 22か所完成)</p>	
<p>足羽川ダムについては、早期に工事に着手できるように、環境アセスメント手続きおよび補償関係調査の推進を国に働きかけます。</p> <p>また、水源地域対策特別措置法に基づく水源地域整備計画の策定の準備を整える等、国、町と協力して水源地域対策を進めます。</p>		<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>環境アセスメント手続きについては、方法書が昨年8月に決定され、準備書の公告・縦覧が3月30日に開始されました。</p> <p>補償関係では、平成21年度中の補償基準提示を目指し、調査が進められています。また、移転者の集団移転先について福井市を含む4者で検討を進めています。</p> <p>水源地域対策については、水源地域対策特別措置法に基づく水源地域指定および水源地域整備計画の準備を行っており、今後とも国、池田町と調整しながら進めます。</p>	

## 平成20年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)

(平成21年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	土木部長	氏名	中安 正晃
項目		実施結果	
<p>除雪対策としては、緊急性の高い路線から、順次、消雪施設を整備し、積雪時の円滑な交通を確保します。</p> <p>大雪時の渋滞緩和を図るため、滞留した車の迅速な退出方法や情報の共有化について、国や高速道路株式会社とともに進めます。</p> <p>さらに、除雪期前にパトロールを実施し、積雪によって道路に倒れかかるおそれのある木を事前に伐採します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>圧雪による交通渋滞が発生しやすい区間などを中心に消雪施設を整備したほか、除雪車両の確保(516台 昨年比13台増)、倒木対策チームによる立木の事前伐採など、ハード、ソフト両面から対策を実施しました。</p> <p>また、高速道路においては、県内の携帯電話不感地帯が全て解消されたほか、事故時に車両を除去し、すみやかに渋滞解消を図るため、レッカー車が配備されるなど対策が強化されました。</p> <p>さらに、豪雪等により通行止めが長期にわたる場合には、上下線の連絡路を活用して滞留した車を退出させる方法も確立されました。</p>	
<p>消雪設備の整備による円滑な交通の確保(平成19年度末 286km) 294km(8kmの増)</p>		<p>消雪設備の整備による円滑な交通の確保 294km 国道416号福井市西開発～新保地係など8kmの増</p> <p>高速道路(北陸自動車道)の除雪体制強化 ・携帯電話の不感地帯解消 (今庄IC～滋賀県境までの全トンネル) ・レッカー車を新たに配備(敦賀IC)</p>	
<p>木造住宅の耐震化を促進するため、耐震診断や補強プランの作成、耐震改修工事に対する支援を、市町と連携して推進します。</p> <p>また、耐震改修への助成を国の地域住宅交付金の対象事業として位置づけるよう、国に働きかけます。</p> <p>さらに、県民への意識高揚を図る説明会の開催や、建築関係団体と協力して建築士等の技術力向上のための講習会を開催します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>耐震診断において、耐震性が不足すると判定された住宅所有者等に具体的な補強プランを提示し、耐震改修工事の実施を促しました。</p> <p>これまで耐震診断を行った方で耐震改修工事を行う方が、これまでの0人から47人となるなど耐震改修への流れが生まれてきています。</p> <p>新年度においては、ほとんどの市町が事業主体として耐震改修を支援するとともに、簡易な工法を取り入れるなど工期が短く低コストの改修を促進していきます。</p>	
<p>耐震診断・補強プランが作成される木造住宅戸数 (平成19年度末 1,482戸) 1,732戸 (250戸増)</p> <p>耐震化が図られる木造住宅戸数 新規 140戸</p>		<p>耐震診断・補強プランが作成される木造住宅戸数 1,787戸(305戸の増)</p> <p>耐震化が図られる木造住宅戸数 新規59戸 (改修54戸、建替5戸)</p>	

## 平成20年度 政策合意項目に係る実施結果報告(土木部)

(平成21年3月末現在)

## 【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)

役職	土木部長	氏名	中安 正晃
項目		実施結果	
<b>3 行財政構造改革</b> <b>◇ 土木3公社の整理合理化</b> 平成22年度の解散に向けて、住宅供給公社の未分譲宅地の販売を推進します。土地開発公社の保有土地についても、精力的に民間企業等への売却を推進します。 また、道路公社においては、9月に河野海岸有料道路が無料化されることから、残る2路線について、道路公社の解散を含めそのあり方について検討します。		[成果等] 目標達成にはいたりませんでした。 住宅供給公社において、新ふくい人や高齢者と同居する人などに対して販売価格を優遇する制度を設けるなど、昨年を上回る区画数を販売しました。今後は、販売動向を見て一括売却などを検討します。 土地開発公社では、1件(6,894㎡)を民間企業へ売却し、さらに1件を、福井警察署の建て替え用地として活用することとなりました。今後は、売却に係る制限を緩和し、事業所などへ幅広く保有地の売却を進めます。 道路公社においては、法恩寺山、三方五湖有料道路において、通行料金の割引、地域内の観光施設や協賛店でのサービスなどの利用促進策を実施しました。引き続き、経営改善を図りながら、今後の収支の状況など公社のあり方を検討します。	
住宅供給公社未分譲宅地の販売区画数 (平成19年度 7区画) 18区画 土地開発公社の保有土地売却数 3件		住宅供給公社未分譲宅地の販売区画数 9区画 土地開発公社の保有土地売却数 1件	
<b>◇ 新たな入札制度の円滑な実施</b> 一般競争入札の対象金額を7千万円以上から、原則250万円超に拡大し、技術力も併せて評価する総合評価落札方式を本格的に導入するなどの新しい入札制度について、適切で円滑な実施に努めるとともに、制度の検証を行います。		[成果等] 目標を達成しました。 一般競争入札の対象金額の拡大により、本年度の平均落札率(88.2%)は昨年度より2.5ポイント低下しました。 このほか、本年度から総合評価落札方式を本格運用(原則として5千万円以上の工事)し、入札における競争性・透明性を一層高めるとともに、技術力を活かした工事調達を行うことができました。 3月から、経済対策として行う公共事業の発注に合わせ、低入札対策の強化、複数等級を対象とした入札の拡大、防災力維持における貢献度の配慮を行いました。	
		<b>入札制度の主な改正点</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・低入札対策として、最低制限価格等の設定方法を引上げ(8月～)</li> <li>・建設業者の地域への貢献度の評価を重視し、総合評価落札方式における評価項目・配点を改正(3月～)</li> <li>・低入札対策として、価格調査において失格判断基準を導入(3月～)</li> <li>・小規模業者がより高度な業務に参加し、技術力の向上を図れるよう、複数等級を対象とした入札を拡大(3月～)</li> </ul>	

## 4年間の目標数値の進捗状況報告(土木部)

(平成21年3月末現在)

指 標 名	18年度の現状	19年度の現状	20年度の現状	22年度末 までの目標
舞鶴若狭自動車道の事業進捗	小浜西・敦賀間 用地買収98%	用地買収約99%	用地買収99.7%	用地買収約100%
中部縦貫自動車道の整備(永平寺大野間)	越坂トンネル、 永平寺西・東間開通 3.2km区間	勝山・大野間の 用地買収 約99%	上志比・勝山間の開通 3月28日	勝山・大野間 7.8kmの着工
県内の主要道路の供用路線数	—	3路線	2年間で11路線 (20年度8路線)	4年間で 14路線供用開始
渋滞を緩和する主要交差点数	12か所 (平成15～18年度)	9か所	2年間で22か所 (20年度13路線)	4年間で34か所
県民が住宅に満足を感じる割合	60% (平成15年度)	66%	67%	70%以上
河川での草刈、清掃、花の植栽を行う 川守参加者数	73,000人	74,170人	74,580人	75,000人
歩道内の清掃、除草、花の植栽、道路 の危険箇所等の情報提供を行う道守参 加者数	176人	5,620人	10,290人	13,000人
洪水、土砂災害ハザードマップの作成	4市町	11市町	13市町	17市町 (全市町)
土砂災害対策を実施する箇所	(162か所整備中)	41か所整備	2年間で63か所整備 (20年度22か所整備)	4年間で100か所整備
洪水に備えた改修を実施する河川数	(25河川改修中)	1河川改修完了	2年間で3河川改修完了 (20年度2河川改修完了)	4年間で7河川改修完了
消雪設備の整備延長	276km	286km	294km	310km